

折々の記 No128：不可解な「荣誉礼辞退」！ （H19・11・28 記）

守屋前次官の収賄事件に関連してであろうか、本日 28 日から開始された自衛隊高級幹部会合における総理訓示のため来省した総理が荣誉礼を辞退したと云う。我が耳を疑いたくなる、“不可解千万な事態“が出来たものである。

そもそも荣誉礼をイベントや祭りと同格としてしか見ていない総理や官邸の見識を疑う。否、荣誉礼辞退に対して、それをすべきではないという諫言すらなかったのであろうか、寂しい限りである。唯唯諾諾の官僚の何と多きことか!

荣誉礼とは何か、厳粛な儀式であって、決してイベントではない。自衛隊法施行規則によると、荣誉礼及び儀仗の目的は次の通りとされている。

- 荣誉礼

荣誉礼受礼資格者が自衛隊を公式に訪問し若しくは視察する場合又は長官の定める場合に、荣誉礼受礼資格者に敬意を表するため行う。（自衛隊法施行規則第 13 条）

- 儀仗

荣誉礼受礼資格者が自衛隊を公式に訪問し若しくは視察する場合の発着又は長官の定める場合に際し、荣誉礼受礼資格者等の途上を警衛し、及びこれに敬意を表するため行う。（自衛隊法施行規則第 14 条） （規則の引用はウィキペディアから）

自衛隊の最高指揮官たる内閣総理大臣に敬意を表するのは自衛隊としては当然であり、その総理の命令により自衛隊(官)は、命を掛けて任務を遂行するのである。従って、総理は部隊の荣誉礼や儀仗を、自衛官の想いの表明の一環であると認識・理解して、厳粛な気持ちで受け止めるべきである。

にも拘らず、汚濁に塗れた隊員による荣誉礼など、自らが穢れると云わんばかりに辞退するなど、信じられない。辞退すべきではないのだ。

確かに、辞退の理由は明確ではないけれども、前次官絡みであるならば、辞退が全自衛官に与えた影響を計り知れない。士気は急落しよう。

ネットのニュースによれば、賑やかな儀式はやるべきではないと判断したのではと報道されているが、それが事実ならば、荣誉礼を賑やかな儀式と捉える意識こそ不見識極まりない。また、総理は綱紀肅正や期待をかみ締め範を示せと訓示したと言う。自衛官が起こした訳ではあるまいとは思うが、自衛官も同一視されたことが情けない。

そもそも、次官は自衛隊員ではあっても、自衛官ではない。全ての自衛官は真摯に己の使命に黙々として邁進しているのである。それを自衛官も前次官と同一視しているとしか思えない仕打ちには愕然とする。

全ての自衛官は、海外において日本各地において、陸に、海に、空に、ただ粛々と己の任務を遂行している。そんな彼等と前次官を同一視しているとしたら、許せない。

ただでさえ、今回の事件のみならず、インド洋における給油活動の中止も有り、自衛官の士気が低下しているのである。

自衛官や多くの自衛隊員が、自衛隊創設以降、黙々と任務を遂行してきたからこそ、今日では国民大多数の信頼を勝ち得るまでになったのである。汚吏貪官は極めて一部の高級官僚だけであった筈だ。それらを明確にする意味でも総理は高級幹部会同で話すべき事項が多々あった筈である。否こう言う時期だからこそ、総理は高級幹部を通じてでも良いから「自衛隊（官）の士気を高らしめ、益々任務に精励すべく」訓示すべきではないのか。それを榮譽礼の辞退などと自衛官の士気を低下させるなど以ての外である。小生の理解を超える。